

テレビ東京 ドラマ撮影感染対策 基本ガイドライン

○撮影・収録への考え方

感染防止に注意し撮影を行うようお願いいたします。

「3密」を避け、体調管理された最少人数で、ソーシャルディスタンスを保ち、最小時間での撮影を心掛けること。ドラマ撮影において、出演者の「密接」は不可避です。そのリスクを認識しながら、最大限の「安全」対策をして撮影に臨むことが基本です。

キャスト・スタッフにPCR検査で陽性反応が出た場合、2週間の撮影ストップ、更に感染者は体調回復後も、3週間～1か月程度復帰できない可能性があります。撮影終了まで常に困難と向き合うことになります。そして何より番組制作進行よりも大切なのはスタッフ・出演者等関係者の「安全」であり、それが最優先と考えています。安全対策をしっかりしているということがキャスト・スタッフ全員の「安心」にもつながり円滑に撮影・収録が進んで行くことにつながります。何卒ご理解ください。

○具体的な対策

① 「3密」を避ける 「密閉空間」「密集場所」「密接場面」を避け撮影に臨むこと。

以下の撮影は引き続き禁止とします。

- ・大人数エキストラでの撮影
- ・インターネットによるボランティアエキストラの募集

また事務所所属であっても所属会社によって体調管理を徹底してもらう。

② マスク スタッフは例外なく全員がマスクを着用すること。

特に密になる状況などではフェイスシールドも着用してください。

俳優部は、本番以外はマスクもしくはフェイスシールドを着用してください。

③ 検温 クラックイン 2週間前から毎日の検温報告をマストとする。

撮影日は午前・午後の検温をお願いします。同居者の体調不良も申告。

④ 安全管理担当者を立てる。

番組ごとに防疫作業をまとめる管理担当者を設ける。

現場での消毒作業や換気、スタッフの検温、症状の疑いのある人の対応等を受け持つ担当者を立てる。

⑤ こまめな手洗い、うがい、消毒

毎日のスタート前の消毒から始まり、休憩に入るときと終了時等要所要所での消毒を心がけるようお願いします（目安は2時間一度）。

スタジオ入り口のドアノブなどは更にこまめな消毒をすること。

トランシーバー、ピンマイクなど人と接触する機会の高いものには特に気を使い、手渡しではなくBOXを利用するなど心掛けてください。

入口等に消毒液を設置し、キャスト・スタッフも要所要所で常に手指の消毒やうがい等に心がけるようお願いいたします。

- ⑥ **最少人数** スタッフ、マネージャー等、準備や収録本番中など可能な限り最少人数にする。
- ⑦ **ソーシャルディスタンス** 演技時の俳優部を除き、基本的に 2メートルの距離を保つ。モニターチェックが必要な場合、モニター台数を増やすか、別部屋など複数に分けて行う。
メイク中、ピンマイク装着中は会話をしない（可能なことはキャスト自身でやってもらう）。
- ⑧ **最小時間** 撮影時間を極力短くするようお願いいたします。
収録時間を短くすることに心がけることで、密接な接触を減少させるとともにキャスト・スタッフの体力も維持し免疫力も維持するためです。
- ⑨ **換気** 会議室、スタッフルームのドアは閉めきらない。
リハーサルや撮影中のスタジオなど現場もこまめに換気する。セットチェンジやシーンごとはもちろん、目安は 1 時間に一度（可能であれば 30 分に一度）2 方向を開けて 15 分程度は換気してください。
- ⑩ **食事** 会話は厳禁（食事中の会話が一番危険！）。隣をあけ、向かい合わせは避ける。広いスペースがないロケ地では交代で食事できるよう時間配分をお願いいたします。
移動メシは禁止です。
- ⑪ **移動** バス、機材車、照明車、美術車では、マスクを着用のうえ会話を避けてください。
可能な限り前後左右を空けるように努め、常時窓を開けて換気に心がけてください。
乗車定員 5 ～ 7 割を目指し、定員ギリギリになる時は一部をタクシー移動等に振り分けるなど工夫する。
- ⑫ **喫煙** 喫煙室で複数名の喫煙は非常に感染リスクが高いため、喫煙室の場合は 1 名利用とする。
- ⑬ **不要不急の外出**
準備期間及び撮影期間中は、感染予防対策の不十分な飲食店の利用や、複数人での飲酒・飲食の自粛をお願いします。
- ⑭ **リモートの活用** 脚本打ち・美打ち・編集確認などは可能な限りリモートを利用し最少人数にするよう心掛けてください。

判断に迷う場合など、局担当者に相談ください。何卒ご理解いただけますようお願いいたします。